

## フューチャー・アース日本委員会参加機関

### 日本委員会・参加機関

- 北海道大学大学院保健科学研究所
- 北海道教育大学(函館校国際地域学科)
- 東北大学
- 茨城大学
- 千葉大学
- 国連大学(サステナビリティ高等研究所)
- 政策研究大学院大学(政策研究科)
- 東京大学(未来ビジョン研究センター)
- 慶応義塾大学(大学院政策・メディア研究科)
- 名古屋大学(フューチャー・アース研究センター)
- 中部大学
- 三重大学(大学院 生物資源学研究科)
- 京都大学(学際融合教育研究センター Future Earth研究推進ユニット)
- 鳥取大学(国際乾燥地研究教育機構)
- 広島大学(FE・SDGsネットワーク拠点(NERPS))
- 高知工科大学(フューチャー・デザイン研究所)
- 九州大学(持続可能な社会のための決断科学センター)
- イクレイ日本
- 科学技術振興機構／社会技術研究開発センター
- 国立環境研究所
- 総合地球環境学研究所
- 地球環境戦略研究機関
- 日本科学未来館
- CSOネットワーク
- 文部科学省(研究開発局環境エネルギー課)
- イオン環境財団
- 花王株式会社
- グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン
- 日本学術会議
- 海洋研究開発機構(JAMSTEC)
- リモート・センシング技術センター(RESTEC)
- 長崎大学(大学院 熱帯医学・グローバルヘルス(TMGH)研究科)
- 認定NPO法人Malaria No More Japan(マラリアノーモアジャパン)
- 宇宙航空研究開発機構(JAXA)地球観測研究センター(EORC)
- 名古屋市立大学
- (一社)SDGs市民社会ネットワーク

2021年1月現在

### 日本委員会・運営委員及びオブザーバー

役職	氏名	所属・職名
共同委員長	武内和彦	日本学術会議前副会長、東京大学特任教授
委員	安岡善文	東京大学名誉教授
	蟹江憲史	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授
	江守正多	国立環境研究所地球環境研究センター副センター長
	安成哲三	総合地球環境学研究所所長
	毛利 衛	日本科学未来館館長
	山本百合子	イオン環境財団事務局長
	土居下充洋	文部科学省研究開発局環境エネルギー課長
	大西 隆	日本学術会議元会長、東京大学名誉教授
オブザーバー	春日文子	フューチャー・アース国際本部事務局日本ハブ事務局長、国立環境研究所特任フェロー
	ハイン マレー	フューチャー・アース・アジア地域センター事務局長、総合地球環境学研究所教授・副所長
	長谷川雅世	国際環境経済研究所首席研究員
	堅達京子	NHKエンタープライズ制作本部情報文化番組 エグゼクティブ・プロデューサー

## フューチャー・アース日本委員会の役割

- 国内でのFuture Earth活動の推進
  - 日本サミットのような活動
    - 日本委員会参加機関同士のネットワーク作り
    - 国内でのステークホルダーとのネットワーク作りと共通の問題に関する議論
  - 国内での広報活動
    - ホームページやメーリングリスト等による、日常的な情報交換
- 日本ハブ、アジアセンターとの協力による、グローバル活動との連携
  - Future Earth国際活動の各機関内での周知
  - Future Earth国際活動への発信、貢献
    - 種々の意見募集への参画、KAN committeesへの積極的応募、など
    - 特に、Earth Commission, Science-Based Pathways initiativeへの参画



Future Earth日本サミット  
2019.12

Future Earth 日本サミット (2019/12/19; @アキバプラザ)

## 目的

- ① Future Earth 研究コミュニティとステークホルダーの連携
- ② 国内と国際の Future Earth 活動の接続
- ③ 国内 Future Earth 関係者のネットワーキング

## 主なアジェンダ

- 日本委員会参加組織紹介
- JST FEプロジェクト/JSRAで得られたこと
- FEの最新動向 (Science-Based Pathwaysほか)
- 分科会 (①気候変動・生態系・健康、②気候変動と防災・減災、③生物多様性)

参加者110名以上 (学術関係者～2/3、ステークホルダー～1/3)

JST RISTEX (共催) より会場費、その他はボランティアベース

# 日本学術会議会長談話「「地球温暖化」への取組に関する緊急メッセージ」



## 国民の皆さま

私たちが享受してきた近代文明は、今、大きな分かれ道に立っています。

現状の道を進めば、2040年前後には地球温暖化が産業革命以前に比べて「1.5℃」を超え、気象・水災害がさらに増加し、生態系の損失が進み、私たちの生活、健康や安全が脅かされます。これを避けるには、世界のCO<sub>2</sub>排出量を今すぐ減らしはじめ、今世紀半ばまでに実質ゼロにする道に大きく舵を切る必要があります。

しかし、私たちには、ただ「我慢や負担」をするのではなく、エネルギー、交通、都市、農業などの経済と社会のシステムを変えることで、豊かになりながらこれを実現する道が、まだ残されています。世界でそのための取組は始まっていますが、わが国を含め世界の現状はスピードが遅すぎます。

少しでも多くの皆さんが、生産、消費、投資、分配といった経済行為における選択を通じて、そして積極的な発言と行動を通じて、変化を加速してくださることを切に願います。我々科学者も国民の皆さまと強く協働していく覚悟です。

## 緊急メッセージ

- 1 人類生存の危機をもたらす「地球温暖化」は確実に進行しています
- 2 「地球温暖化」抑制のための国際・国内の連携強化を迅速に進めねばなりません
- 3 「地球温暖化」抑制には人類の生存基盤としての大気保全と水・エネルギー・食料の統合的管理が必須です
- 4 陸域・海洋の生態系は人類を含む生命圏維持の前提であり、生態系の保全は「地球温暖化」抑制にも重要な役割を果たしています
- 5 将来世代のための新しい経済・社会システムへの変革が、早急に必要です

日本学術会議は、フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会、環境学委員会・地球惑星科学委員会合同FE・WCRP合同分科会、地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人間の側面(HD)分科会、経済学委員

会・環境学委員会合同フューチャー・デザイン分科会、地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会において、また、Future Earthグローバルハブ日本(東京大学、国立環境研究所、日本学術会議ほか)、Future Earthアジア地域センター(人間文化研究機構総合地球環境学研究所)の協力を得て、地球温暖化への取組に係る審議を進めてきています。

この度、9月23日にニューヨークで開かれる国連気候行動サミットに合わせて、このメッセージを発信いたしました。

引き続き、国際的な学術団体や国連機関とも緊密に連携し、この問題を含め、世界的な課題の解決に向けて積極的に貢献してまいりたいと思います。

令和元年9月19日  
日本学術会議会長  
山極 壽一

